

第20週の発生動向 (2006/5/15~2006/5/21)

1. 伝染性紅斑については、**警報**が弘前で第13週から、五所川原保健所で第16週から継続して出され、注意が必要です。
2. 流行性耳下腺炎については、上十三及びむつ保健所管内で第19週に引き続き**注意報**が出ています。
3. インフルエンザについては、前週より80人増加し、特に弘前、八戸地域では患者報告数が多い状態が続いていることから引き続き注意が必要です。迅速診断キットにより、弘前保健所管内ではA型:4件、B型:35件、むつ保健所管内ではA型:14件が報告されています。

第20週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	11	0.79	39	2.60	78	5.57	14	2.00	8	0.89	14	2.33	164	2.52	80
(60) 咽頭結膜熱	1	0.11									4	1.00	5	0.12	-1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	1.11	17	1.89	3	0.33			22	3.67	8	2.00	60	1.43	10
(62) 感染性胃腸炎	37	4.11	40	4.44	10	1.11	3	0.60			19	4.75	109	2.60	-33
(63) 水痘	16	1.78	6	0.67	15	1.67	6	1.20	12	2.00	8	2.00	63	1.50	-14
(64) 手足口病			4	0.44			1	0.20			1	0.25	6	0.14	4
(65) 伝染性紅斑	10	1.11	21	2.33	6	0.67	16	3.20	4	0.67			57	1.36	17
(66) 突発性発しん	3	0.33	4	0.44	2	0.22	1	0.20	6	1.00	1	0.25	17	0.40	-8
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	8	0.89	2	0.22			1	0.20	1	0.17			12	0.29	9
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.22	3	0.33	4	0.44	3	0.60	19	3.17	19	4.75	50	1.19	-27
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00			4	2.00			2	1.00			8	0.73	-4
(59) RSウイルス感染症	1	0.11	1	0.11			2	0.40					4	0.36	-3
(82) マイコプラズマ肺炎					1	1.00							1	0.17	-4

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (29) つつが虫病(五類全数把握疾患) 弘前保健所管内 : 1人 (18年計 1人)
- (55) 梅毒(五類全数把握疾患) 上十三保健所管内 : 1人 (18年計 2人)

感染症の窓

伝染性紅斑 (リンゴ病)

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19により、飛沫または接触により感染します。幼児から学童に多くみられ、感染すると、微熱や風邪様症状を呈し、その後、両頬や手足に特徴的な紅斑が出ます。紅斑の時期には感染力がないことが多く、周囲に風邪様症状者が出た場合には、**手洗いやうがい等を行う**ことが予防の一つです。全国に比べ青森県では多い報告数を示しており(図1)保健所別では、弘前、五所川原保健所管内で多い報告が続いています(図2)。

定点あたり報告数

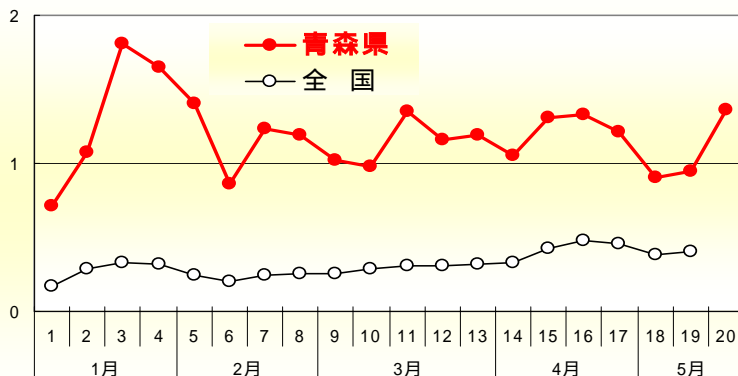


図1 全国と青森県の推移 (2006年)

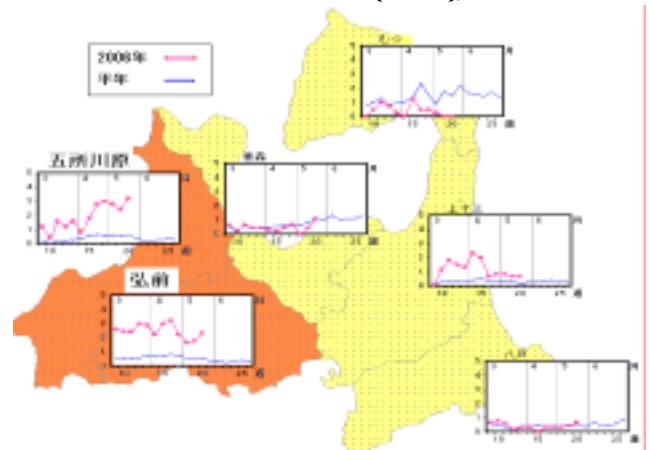


図2 保健所別報告数推移 (2006年)

上段:週/下段:月